

序

がん対策基本法が2007年に施行され、がん治療初期からの緩和ケアが推奨されるようになった。また、がん患者の約70%が疼痛を訴えるが、そのうち90%は鎮痛薬によって治療することができるため、鎮痛薬を使用した疼痛治療はがんの治療において重要な役割を担っている。さらに、オピオイド鎮痛薬だけでも、2000年以降に新規承認された製剤は30種類を超え、個々の患者にオーダーメイドな薬物療法を容易に行えるようになってきている。

その一方、緩和医療の専門医以外からは、「鎮痛薬の選び方や使い方に難渋し、痛みを上手くコントロールできない」という声も多く耳にする。また、各々の鎮痛薬の特徴の理解不足から、患者の状態や希望に応じた薬物療法が行われていない現状も否定できない。

そこで、がん疼痛治療薬の選び方・使い方を丁寧に解説した入門書として本書を企画した。

治療薬の解説では、機序、処方例、副作用といった基本的な解説はもちろんのこと、どのような患者に使うのか、同種薬との使い分けはどのように行うのか、効果判定のタイミングなど、現場で役立つ内容を掲載した。

また、さまざまな患者に対応できるよう、経験豊富な臨床医の方々に多くの症例をご執筆いただき、がんの種類や痛みの出現状況に合わせた薬物選択のポイントや、患者への説明の仕方、効果が出ないときの薬の切り替え方など、実践的な解説を行っている。

本書には専門医ならではのアドバイスやコツなどメッセージが凝縮されている。少しずつ実践し体得していただくことで、身近にいるがん患者の疼痛コントロールに役立てていただければ望外の喜びである。

2014年8月

山口重樹
下山直人